

学校関係者評価結果

内容	評価項目	R4年度	R5年度	総括	課題	学校関係者評価	
						4：優れている 3：適切である 2：努力を要する	外部評価委員の意見
I 学校経営	1 学校は、設置者の意思・指針を明確にしている。	5	4.5	4.8	学校運営は教育目標達成に向けて機能している。当該の特色を教育活動により反映できるように運営していくことが課題となる。 昨年から課題であるが、会議の持ち方については、業務優先の中不定期開催であったり、報告会で留まる傾向がみられ改善に至らない。これも主体的に意見交換できる雰囲気作りと効率的に短時間で討議が行える事前準備（資料の提示等）の会議運営方法を模索したい。	4	
	2 学校のビジョン及び実現のための目標を策定し、教職員の共通理解を図っている。	4.7		4.5			
	3 学校評価を実施し、その評価を教職員は周知している。	4.4		4.7			
	4 教職員会議などを通じて、教職員は学校の経営管理に参画している。 (学校経営についての情報を得て、経営的視点をもって、活動できる)	4.2		4.5			
	5 各会議は、学校運営に関する議論の場として機能している。	3.9		3.7			
II 教育課程・教育活動	6 教育目標の内容は、卒業時到達目標に合わせ、評価・検討している。	4.2	4.5	4.8	次年度からすべての学年が新カリキュラムの運営となる。まずは新カリにおける教育課程とデプロマポリシーの達成度から教育課程を評価、修正する。 学習方法が確立していない学生や困難性のある学生に対するかわりや授業方法についてなお一層充実を図る。その為常に課題を抽出し一つ一つのある指導方法を展開することが課題となる。	4	課題はあるようだが、常に改善し努力していることは評価していいのではないかと。
	7 教育理念・教育目的・目標は一貫性を持っている。	4.3		5			
	8 定期的に教育課程の評価を組織的に行い、時代の要請、変化にあったものに修正している。	4.6		4.7			
	9 シラバスは、学生が授業内容を理解しやすく、授業内容と一致している。	4.3		4.1			
	10 効果的な授業運営のため、適切な時間割を調整している。	4.9		4			
	11 学生に合わせた授業内容や指導方法の工夫をしている。	4.7		4.3			
	12 学生による授業評価を実施し、授業の改善に努めている。	4.7		4.8			
	13 実習における患者の倫理的配慮、患者等からの同意が得られている。	4.7		5			
	14 実習指導者と教員の役割を明確にしているとともに、実習指導者と教員の協働体制を整えている。	4.3		4.3			
	15 学生指導において、学生に対して人権への配慮がされているか。	4.6		4.7			
III 入学・卒業対策	16 より多くの応募者を確保することに努めている。	4.9	4.8	4.6	定員確保は最重要課題である。受験者の増加に向けて新たな対策を検討する。また退学者を出さないよう、学生が「困難に直面しても継続して取り組む動機づけ」を持たせる関りを模索する。 国試対策は、「医学書院国家試験対策Webフルプラン」から「メディックメディア」への変更を考案している。学生自らが学習したという行動で満足するのではなく学習した結果どういったかを認識し、学習行動に移れるよう教材選択が課題である。また、国家試験対策に特化した講師を日々の講義と連動させながら導入し学習の質を上げることが課題であり「国家試験学習時間」という当該の特徴的な時間割の活用方法も課題となる。 就職支援は継続とする。 すべての活動が成果に結びつくことを目指す。	4	社会情勢を踏まえても、入学学生確保や当校の学生の資質、学力から国家試験合格を維持することは大変な努力が必要になると思う。県内の他養成所の現状を見ても今後でも苦慮するであろう 当地区内の就職する率が高いのは喜ばしい
	17 国家試験に向けて、学生にあった指導・援助を行っている。	4.4		4.7			
	18 中途退学者を少なくする工夫・努力をしている。	4.7		4.6			
	19 卒業生の当地区医師会内の就職率を高めるよう努めている。	5		4.9			
IV 学生生活への支援	20 学習への支援をしている。	4.6	4.7	4.5	理解する、活用できる知識の獲得といった目標達成の学習行動が定着できる支援のあり方をさら検討する。まず一つには「国家試験学習時間」の意識をもう一度説明し、意図的な講義日時の配置と時期ごとに何が課題となるかを伝えて目的をもって活用できるように仕掛けを考案する。 脳みでの共有や学習方法について自ら解決できる場面を作る機会として示唆が与えられるよう取り組みを検討する。	4	
	21 学生の健康管理を行っている	4.9		4.8			
	22 学生生活・進学・就職に関して学生の相談に応じている。	4.8		4.8			
	23 就職困難生に対する相談の支援をしている。	4.9		4.7			
24 学生主体の活動に対して支援をしている。	4.4	3.8	4.4	3.8			
V 管理運営・財政	25 予算計画・年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・管理を行っている。	5	4.7	4.9	予算は適正に管理執行されている。基本収入の収入減は確実に影響が出る。各項の厳し予算計画より一層の執行管理を行い収支を見据えて適宜執行する。 学生の意見の反映については、アンケートだけでなく、学年担当のかわり方をさらに強化し意見や感想を聞き学生への満足につなげていく。	4	
	26 学生・非常勤講師や教職員の個人情報管理及び情報のセキュリティ対策は整備されている。	4.9		4.5			
	27 校内の安全管理・防災対策は整備されている。	4.5		4.5			
	28 学校運営に学生の意見が反映されるよう努めている。	4.3		3.8			
VI 施設設備	29 校舎は常に整備され、不備なく機能している。	4.7	4.4	4.5	適宜対応ができており過不足なし。 教材備品の活用を積極的に行うことで有効活用と、実情に合わせた消耗品を活用していく。	4	
	30 教育目標達成に必要な備品及び新しい教材が整っており活用されている。	3.9		4.5			
	31 学生のために、休息・観戦及び交差等を行うためのスペースが設けられている。	4.5		4.8			
VII 教職員の育成	32 教員が計画的に研修に参加できる仕組みがあり、新知識・技術の修得に努めている。	4.6	3.6	4.6	教育目標達成に向けて教員が新しい知識を教育実践に取り入れていくことは必須である。教育指導での困難性は抱えているものに対しての改善策や自己の対応への気づきとなるような方策の一つとして研修を位置づけ学びの共有がなされる場を作ることが必要と考える。	3	教員補充に努める必要がある。
	33 教員が計画的に研究調査活動に取り組んでいる。	2.8		2.9			
	34 教員の授業を他の教員が参観、講評できる制度がある。	3.3		3.2			
VIII 広報	35 ホームページは適時更新し、見やすくしているか。	4.7	4.4	4.6	定員確保の観点からも大きな課題となる。 過時、情報を刷新する。 また、広報活動としては、昨年度実施した商業施設での地域活動を効果的にアピールの場とした。	4	
	36 学校広報活動を効果的に実施しているか。	4.6		4.4			
IX の地域連携	37 地域社会の貢献の一環として学校施設を開放している。	2.9	3.5	5	ハード面の施設は管理上難しい。今年度で「37」は設問から除外したい。その分地域に向けての活動を定着させていきたい。	4	
	38 地域との協働関係が確立されている。	4		4.9			